

『地方創生』に向けた 札幌大学のチャレンジ

Vol.1「むかわ町・鶴川高校との『高・大・地連携』」

はじめに

北海道と地域の活性化に向けて札幌大学が取り組んでいる「チャレンジ」についてご紹介するこの特集ですが、最初に取り上げるのはむかわ町、鶴川高校との「高・大・地連携」についてです。この取り組みは三者が「むかわ関係人口」をテーマとして、『夢叶輪』を真剣に考える若者人材育成プロジェクトです。

今回は、連携先であるむかわ町、鶴川高校、そして中間支援組織、それぞれの立場からメッセージをいただきました。

最初は、中間支援組織である一般社団法人北海道総合研究調査会（HIT）の五十嵐智嘉子理事長から、この取り組みの背景、具体的内容、成果と期待についてまとめていただきました。

2番目に、むかわ町教育委員会の長谷川孝雄教育長に、次世代を担う若者育成とこのたびの連携への思いを語っていただきました。

3番目に、鶴川高等学校三村素道校長から、道内のモデルケースとなっている高校魅力化の取り組みとこのプロジェクトへの期待などについてお示しいただきました。

最後に、本学の小山副学長から「むかわ町・鶴川高校との『高・大・地連携』」に運命的に導かれ、今後どのような人材の成長と関係人口の創出を目指すのかについて説明させていただきます。

1 高大地・3者連携プロジェクトへの期待



一般社団法人北海道総合研究調査会
理事長 五十嵐 智嘉子 氏

1-1 3者連携の背景と中間支援組織の役割

多くの地域において、人口減少は自然減少と社会減少のダブルパンチで進行しています。転出の年齢層は、10代後半から20代が大半を占め、その目的は進学や就職です。特に高校がない地域は、高校進学時に転出し、その後、地域の人口減少率が高くなる傾向があります。

こうした状況に危機感を抱き、「高校魅力化」（地域探究学習）に取り組む高校も増え、今年度からは、指導要領の改訂により、授業の一環となっています。「高校魅力化」の成功要因は、大人が高校生に真剣に向き合う姿であり、それを見て、高校生が「地域の大人も悪くない」と思うのだと言われています。

高校生の進学先である大学や専門学校は都市部に集中しています。2014年に、国が「地方創生」総合戦略を策定して以降、地域課題解決に関心をもつ人材育成に力を入れている大学が多くなっています。

高校の探究学習と大学の地方創生研究・実践は、必ずしもつながっておらず、さらには町の施策としても活かされているとは言えません。そこで、高校生や大学生が出身地に関わらず地域で課題対応策を検討し、将来、起業や副業先として選択し、あるいは地域の事業に継続的に関わることができる仕組みの構築を目的として、札幌大学、鶴川高校、むかわ町は3者による連携協定を締結しました。

こうした3者連携は、全国的にも珍しく、持続的なプログラムになる可能性が高いとの判断を受け、令和4年度、内閣府の「関係人口創出・拡大のための中間支援組織の提案型モデル事業」に採択されています。本事業は、転出超過の10代後半から20代をターゲット層とした関係人口創出のプロジェクトと位置付けられます。

以上のプログラム形成において、HITと、全国で高校魅力化推進を支援している(株)Prima Pinguinoが連携し中間支援組織として、3つの役割を果たしています。①高校生と大学生の探究学習協働プログラム案の作成、②高校と大学、町との間の調整、③活動支援と評価、です。そして何よりも大切にしているのが、繰り

返しのコンセプト・目的共有です。

1-2 見えてきた成果と課題

現段階で見えてきた成果として、2点あげることができます。第1に、3者の信頼関係が強まり、取り組みが広がりを見せていることです。このあとの小山先生の説明が詳しいので、ここでは割愛しますが、今後の継続事業として注目されるのは、町による大学生のインターンシップ、札幌大学で開講された秋学期の「むかわ町をフィールドに地域課題を学ぶ授業」です。町長や校長をはじめむかわ町民が講師をつとめて、地域の生の声を大学生に伝えることになっています。

第2に、高校生と大学生の関心の高まりです。今回参加していない高校生からは交流を希望する声があがっていると言います。また、秋学期の授業に参加した大学生には、むかわ町を通じて地域課題を学びたいという積極的な姿勢が見て取れます。

一方、課題も見えてきました。第1には、地域課題および対応策検討などに関する教育手法が確立されていないこと。第2には、大学と高校の授業の組み立てが異なっているため、対面で交流する時間が限られることです。実務的にはこの問題に最も難しさを感じています。

1-3 札幌大学への期待

最後に、札幌大学への今後の期待を述べておきます。第1には、探究学習や地域課題解決に経験のない学生にとっては「テキスト」が必要であり、学生に体系的に地域課題把握と対応策の検討手法を教育していただくことです。第2に、本プログラムを他大学にも伝搬していただくことです。大学はそれぞれ得意分野があり、大学連携によってより効果的な地域への関わりが生まれるものと期待できます。

札幌大学では、学生のみならず、副学長や教員、事務職の方までもが一緒になって地域に出向いています。この一体感は何ものにも代えがたい大学の文化となり、3者連携プロジェクトが今後飛躍する基礎になると思います。

2 むかわ町の若者育成



むかわ町教育委員会
教育長 長谷川 孝雄 氏

2-1 むかわ町の紹介

むかわ町は、道央圏の南方、胆振管内の東端に位置する人口約7,600人の町です。特産の「鵒川ししゃも」や近年は国内最大の恐竜全身骨格化石「カムイサウルス・ジャポニクス」が発見されたことでも知られ、札幌から車にて約1時間で来ることもでき、多くの観光客が訪れます。

2-2 今回の連携に参画する理由

2018年に発生した北海道胆振東部地震で甚大な被害を受けた町としても知られ、町内の建物倒壊や山林が崩壊し、産業含めて大きな被害が発生しました。

一方、震災前から町で続いていた人口減少とともに、高校魅力化が課題となっており、そういった状況を打破すべく地域一体となった高校魅力化を進めてきました。

しかし、高校魅力化だけでは若者が地域に定着することではなく、この札幌から近いという地域特性を活かし、札幌圏の大学と連携することが大きな効果を生むのではないかと考えました。関係人口の創出や人材還流にもつながるのではないかと感じています。

被災したこの町で、大学と連携することが地域活性化や人口減少対策、そして震災復興につながるものと考え、今回の連携に舵を切ったところです。

2-3 今回の連携でどのような効果を期待

連携により、大学生がむかわ町に来るということは、様々な波及効果が生れます。若者の育成にあわせて地域が活性化し、さらには主体的に関わった若者が地域に定着する。定着しなくとも将来的な関係人口になりうる。そんな2粒も3粒もおいしい効果が生まれる可能性があり、複数の効果が生まれることを期待しています。

2-4 この連携において札幌大学に期待すること

そして、道内有数の私立大学である札幌大学では、

様々な学生が在籍しています。地域づくりには多くの若者の参画が必要であり、様々な場面で大学生が町に来てほしいと願っています。

「まちづくりはひとづくり、ひとづくりはこころづくり」といいます。むかわ町の次世代を担う若者を育成することが私の使命だと考えており、この連携事業を通じて実現を目指していきます。

3 北海道鵒川高等学校の高校魅力化と大学連携



北海道鵒川高等学校
校長 三村 素道 氏

3-1 北海道鵒川高等学校の現状

北海道鵒川高等学校は、胆振東部「むかわ町」にある1学年2クラスずつの連携型中高一貫教育校です。野球など部活動のイメージが強いかもしれませんが、地域創生に向けた高校魅力化の取り組みでは、道内高校のモデルケースともなっています。むかわ町内外の様々な組織・団体からなる高校魅力化コンソーシアムを基盤とし、魅力化コーディネーターが地域と学校をつなぎ合わせることで、生徒たちは地域に飛び出しリアルな探究学習を行っているところです。恐竜や産業、自然や行政など地域の豊富な教育資源を背景に地域全体を学びのキャンパスと捉えた地域課題解決型探究学習「むかわ学」や、テーマ別グループ学習「チャレンジスタディ」、キャリア教育の一環としての「デュアルシステム」の実践など非常にユニークなカリキュラムを通じて、これからの社会で必要とされる資質・能力の育成を図っています。むかわ町からの絶大な支援により、高校生にとってのサードプレイス「夢叶輪公営塾」や生徒寮「三氣塾」、高校2年生の単年度留学制度「地域みらい留学365」など独自の学習環境が整備され、次年度からは道外からの生徒募集も行われることになります。

3-2 今回の連携に参画する理由

今年度から始まった高・大・地連携プロジェクトを通して、上記のような本校の特徴的な学びを中心とし

た様々な教育活動に、むかわ町をステージとして、大学（学生、教授、大学キャンパス・施設、といった人的・物的資源）との協働が加えられることとなりました。より豊かで発展性・専門性のある教育活動を行うことにより、高校生や大学生の将来の選択肢をさらに広げることができるようになります。また、高校・大学・地域の間で人材の循環を促すことにより、地域創生に向けた人材育成と循環が図れるものと考えています。

3-3 この連携において札幌大学に期待すること

なんと言っても大学生の強みは、親や教師などとは異なった斜めの関係性を高校生と築ける点です。札幌大学の皆さんには、連携の中核となる探究学習において高校生とともにアントレプレナーとして、時にメンターとしての活躍を期待しています。実際にむかわ町へ足を運び、高校生と接する機会をできるだけ多く持つことで、相互の信頼関係とプロジェクトの充実が図られるだけではなく、高校生のキャリアに関する意識も変わってくるのではないかと考えています。全国的にも非常に珍しい三者の連携プロジェクトを通して、新たな人材育成と循環が生まれることを期待しています。

4 『高・大・地連携』と札幌大学の取り組み



札幌大学
副学長 小山 茂 氏

4-1 札幌大学の現状

札幌大学は、札幌市豊平区にある1学年800名で1学群9専攻（経済学、経営学、法学、英語、ロシア語、歴史文化、日本語・日本文化、スポーツ文化、リベラルアーツ）の文科系総合大学です。第2弾で大森義行学長から大学の詳細な取り組みを説明する予定です。

4-2 今回の連携に参画する理由

2022年3月1日（火）大安吉日、むかわ町と北海道鵒川高等学校、札幌大学との包括連携協定式が行われました。むかわ町と鵒川高校との地方創生のための

様々な施策や事業の加速化に加え、人材育成や関係人口の創出、高校および大学の魅力化などを目的としたものです。

協定式には、むかわ町の竹中喜之町長、教育委員会の長谷川孝雄教育長、北海道鵒川高等学校の三村素道校長、札幌大学の荒川裕生理事長、大森義行学長のほか、HITの五十嵐智嘉子理事長と、産業能率大学教授で㈱Prima Pinguino代表取締役の藤岡慎二氏が出席しました。

ここで『夢叶輪』＝「むかわ」に引き寄せられた理由を述べておきます。

- ① 札幌大学の荒川理事長とHITの五十嵐理事長（現在札幌大学の評議員）は、北海道庁とシンクタンクの関係でかねてより「縁」があります。
- ② 本学の「みらいフロンティア・プラン」について、五十嵐理事長・藤岡教授にご協力をいただいております。
- ③ 本学の大森学長と鵒川高校の三村校長とは函館ラ・サール高等学校出身の先輩・後輩の関係で「縁」があります。
- ④ 高校魅力化コンソーシアム運営者に、鵒川高校出身の堀江育也准教授の先輩・後輩がいます。
- ⑤ 2006年3月27日、鵒川町と穂別町は合併し、むかわ町となりました。その合併の時の公共交通の整備には、千葉博正名誉教授とともに小山もお手伝いしました。
- ⑥ 「田んぼdeミュージカル委員会」をご存じでしょうか？穂別の斉藤征義氏をご尽力され、崔洋一映画監督監修で、数々の映画が、むかわ町穂別地区の住民により作成されました。英語の翻訳に協力されたのが本学熊谷ユリア教授です。
- ⑦ 香山リカ（本名：中塚尚子）氏が2022年4月から、むかわ町国保穂別診療所副所長に就任されました。恐竜の化石で有名な同町で地域医療に携わりたいとのことです。札幌大学ではむかわ町との関係から、今年オープンした「みらい共創スクエア・地域連携センター」の設立記念講演会の講師として11月15日（火）に本学にて、ご講演いただきました。

以上のように、この連携事業は『夢叶輪』という言葉に引き寄せられた『むかわ関係人口』について真剣に考える若者人材育成プロジェクトです。

4-3 札幌大学の取り組み

ここでは、札幌大学で行っている取り組みについてご紹介しておきます。

鵒川高校生の探究学習は、1年生から3年生までの3年間をかけた「むかわ学」というプログラムで、1年生は主に地域を知り（巡検）、2年生からテーマを絞って班をつくり、3年生は、テーマに沿った活動をして最後に町に提言発表する、という流れです。2022年度は初年度でもあり、モデル的に大学生12人が高校3年生10人（4班）の探究型学習に参加するという形でスタートしました。

7月から、高校生と大学生が対面で「むかわ学」に取り組み、12月にはむかわ町への施策提案を行う発表会が開催されました。

札幌大学では、秋学期「むかわ町をフィールドに地域課題を学ぶ授業」教員発案型授業を開講しています。この授業では、地域課題を考える基礎知識を修得するとともに、地域課題の探求・分析・解決ならびに起業をも視野に入れ、地域課題は面白い、地域を支える人材は面白い、むかわ町・鵒川高校・札幌大学プログラムの実施内容の紹介の3部構成となっており、竹中町長や三村校長をはじめむかわ町民が講師をつとめて、中間支援組織として五十嵐理事長・藤岡教授にも参画いただき、地域の生の声を大学生に伝えています。

4-4 今後の展開

今後も、札幌大学においては引き続き多くのプレイヤーにご協力いただきながら、むかわ町の魅力に惹きつけられる学生を確保するための方策を展開していきます。興味を持った学生はむかわ町と鵒川高校の連携事業に積極的に参加できるようになっています。

この取り組みを通じて、若者が移住し、人口増加できるような魅力あるむかわ町のまちづくりに貢献していきたいと考えています。